



東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 3 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 28 年 9 月 29 日 (木) 10:00~12:00
2. 開催場所 スタダード会議室ヒルズフロント店 小ホール
所在地：東京都港区虎ノ門 1-22-14 ミツヤ虎ノ門ビル 5 F
3. 議事次第
 《審議事項》
 - (1) パブリックアクセス P T 政策提案について
 - (2) 平成 28 年度フォーラム総会議事次第 (案) について
 - (3) 平成 28 年度第 2 回 CSR-NPO 未来交流会開催 (案) 《報告事項》
 - (1) P T 長会議報告
 - (2) 平成 28 年度 P T 活動報告
 - (3) 平成 28 年度企業・行政等施設見学会報告
 - (4) フォーラム法人化検討委員会について
 - (5) その他
4. 出席者
 來生委員長、中村委員、古川委員、岡田委員、工藤委員、木村委員、中井委員、
 井下委員、田久保委員、鈴木 (康) 委員、竹口委員、田中代理、石澤委員、井上委
 員、佐々木 (宏) 委員、坂口代理、佐藤代理、米村代理、小野 (正) 委員、川村代
 理、樋口代理、笹委員、鈴木委員、小池代理、細川、(事務局) 25 名出席 (敬称略)
5. 議事メモ
 5-1 開会
 ■事務局確認事項
 - ・配布資料の確認
 - ・出欠確認 (1) 開会挨拶 (委員長)
 - ・総会前の最後の企画運営委員会です。どうぞよろしくお願ひします。早速、議事に入ります。アクセス PT から説明をお願いします。
- 5-2 議事
 《審議事項》
 - (1) パブリックアクセス P T 政策提案について 【決定事項】

 政策提案「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案」(案) は、提案の通り承認された。ただし、本会議における指摘事項のフォローアップの作



業をおこなう。同時に今後も継続的なフォローアップを図っていく。

(竹口 PT 長 経過説明)

①政策提案書の作成にあたる経過説明。

第 2 回企画運営委員会後、湾岸自治体との意見交換会の実施（8 月 19 日）、PT 会議を実施（8 月 25 日）、東京湾再生推進会議事務局との意見交換会（9 月 26 日）を経て、提案書をまとめている。総括的には政策提案として認められないという意見はなかった。

②提案書の説明

<資料 1-1 パブリックアクセスに関する政策提（案）に対する会員意見とその対応>

- ・資料 1-1 は、会員を含めた今までの指摘事項を踏まえて、表現の仕方など修正をした。
- ・海との接点（視点場）という提案を行っているが、「水と直接触れられないで視点場と言って良いのか」という疑問を呈されたが、東京湾の湾岸域の特性を考慮し、視覚、聴覚、臭覚という視点で視点場としてとらえている。
- ・パブリックアクセスの概念を、海に関する情報機能を視点場への道路や公園に付けることを主眼としていることを理解して頂きたい。

<資料 1-2 東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案> (修正点の説明)

<資料 1-3 参考資料>

- ・背景については、行動計画の目標とされていることを直接的に記載した。
- ・現状と課題で、海に関する情報提供がないから人々が海に関心を持つ契機にならない事を表現した。
- ・パブリックアクセスは元々あったが、埋立てなどにより変わってきている。一方自治体などにより後から公園などが設置されているが、公園は従来からあったという視点からまとめている。
- ・よく知ってもらうための施策として、情報機能に特化して提案をまとめている。
- ・情報機能の充実では、情報源を総合的に取りまとめる必要があることを記載している。
- ・個別の情報を一覧化することで全体が見えることを記載している。
- ・提案施策の検討では、システムや財源はこれから具体的なお願いしていなければならない。2 年間でめどにまずは、一次の提案をさせていただいた。
- ・既存のストックを活用することで、今後具体的な協力をさせていただきたいという姿勢である。
- ・資料 1-3 は参考資料として提示している。

【審議経過】

- ・全体として反対するものでもなく、フォーラムとして大変喜ばしいことである。言葉の使い方の指摘であるが、「・・埋め立ての経過・意味・復元の取り組み・・」で、「復元」という言葉より、埋め立てで失ったものを取り戻すのに「再生」のほうが、幅が広がり良い。



- 「復元」を「再生」に修正する。
- ・大変素晴らし提案である。指標があって評価点となるアクセスポイントがあるとよい。アクセスポイントは後の話になるかと思うが、具体的なアピールポイントがあればより伝えやすい。また、後々そういう見方ができるアウトプットがあってもよいと思う。
- アクセス 100 選などの意見があった。具体化する過程で、先々フォローアップの作業で参考にしていきたい。一つのアクセスポイントを写真とコメント情報化し次のポイントに行けるイメージを抱いている。
- ・2. 1 で、「東京湾再生推進会議による、情報ツールを活用・・・」とあるが、ここだけ「東京湾再生推進会議」名を記載していると、他のところはどこが受ける提案なのか。と読まれてしまわないか。
- 全体的には、東京湾再生推進会議に向けている。構成メンバーの方に全体的に取り組んでいただく場合は、記載していない。再生推進会議という名のもとで、受け皿として国になるのか、あるいは自治体になるのか、さまざまで、再生推進会議の名の下で全体システムをもってほしいということで特出している。
- ・特に主語を付加する必要がないと思ったが、そのようなご意見があれば出席の方々が認識していればよいかと判断する。
 - ・事務局：全体では推進会議あてという意味で皆様が了解したので、企画運営委員会出席の各委員が同じ認識であると議事録に残しておくことにしたい。
 - ・2p2-2. 期待される効果の下りでは、もう少し具体的な記載が欲しい。最後の行「また、観光振興の一助・・・」指摘事項として結果的なので、もっと積極的な PR もあるのではないかと思う。
1. 2①の 2 項目目など、水飲み場、トイレなどの下りもあり、民間が積極的に PR できる場のアイデアが欲しくなる。政策を実施するプロセスで期待したい。
- 2.1 で、「また、利用者の利便性・・・」の項目を追記しています。様々な方との連携が図れるのではないかと考えている。積極的な意味あいから 2-3. 「・・・その際、ステークスホルダーとの調整・・・」の箇所では、民間業者の参入も期待する意味を込めている。
- ・本牧のようにアクセスする釣り場は東京湾にはたくさんある。是非、経団連でも取り上げて全国でも魚の釣り場を作ってほしい。
 - ・アクセスのような活性化も大切であるが、一方では、「海で叫ぶようなこともできる」海もあることを忘れないで欲しい。
- 次のステップで議論ができれば良い。
- ・参考資料の位置付けであるが、資料 1-3 の p1 パブリックアクセス例①～④のうち、具体的に本提案に該当しているのは、①、④だけで良いと思う。
- ・本提案に関しては、提案後に再生推進会議側とキャッチボールをしながらフォローアップを行っていく考えでよいか。
- 可能な限り一緒に仕事をさせていただければと思う。
- ・委員長：今までは異なり、市民活動的なあたらしいイメージの提案となっている。



- ・委員長：いくつかの修正上のご指摘を頂いたので修正等を行い、最後は委員長に一任していただき総会にはかりたい。

(2) 平成 28 年度フォーラム総会議事次第 (案) について

【決定事項】

総会議事次第 (案) は提案通り承認された

(事務局説明)

<資料-2 平成 28 年度フォーラム総会議事次第 (案) >

- ・議事次第 (案) は平成 27 年度をベースにして作成した。今回から総会での配布資料は、費用の節約から資料-1 第一号議案と資料-9 第二号議案は出席者に配布するが、他の資料はパワーポイントによるスクリーンでの掲示だけで、紙資料の配布はしない。

【審議経過】

- ・報告議題 (4) - 4 の文面は、報告か案内かが分かるように記載したほうが良い。
→ CSR-NPO 未来交流会報告及び H28 第 2 回未来交流会案内とする。
- ・総会資料は、ホームページか何かで見ることができるようにして欲しい。
→ 資料はフォーラム HP に掲載する。また、総会でどのような議論がされたかが分かるようにしたい。

(3) 平成 28 年度第 2 回 CSR-NPO 未来交流会開催 (案)

【決定事項】

平成 28 年度第 2 回 CSR-NPO 未来交流会 (案) は提案通り承認された

(事務局説明)

<資料 3 平成 28 年度第 2 回 CSR-NPO 未来交流会 >

- ・今年度は交流会を 2 回開催する予定である。第 1 回は 7 月に開始したが、参加団体数は、昨年より若干増えた。第 2 回を 12 月の開催予定である。

【審議経過】

特に意見、質問なし

《報告事項》

(1) P T 長会議報告

【報告】(事務局)

資料 4 をもとに説明。

- ・ P T 長のいろいろな問題意識、フォーラムに対するご意見等を聞かせて頂く事で開催した。 P T 長 2 人、来生委員長と官側もご出席頂いた。
- ・ 政策提案のとりまとめについては決まった書式ではなく、市民目線からの表現、市民目線での取りまとめでも良いのではないかとの意見があった。
- ・ 自治体の P T 参加の促進については、自治体の立場、国との関係等議論をした。市民に直接接しているのは自治体であり、自治体に対する期待など議論があった。



- ・自治体が P T の内容に関心を持って頂けるよう、あるいは参加して頂ける方法として、具体的な場所、具体的な事例等を考えた議論も有効ではないかとの意見があった。
- ・ P T 活動の広報について、新聞での活動紹介、大感謝祭での活動報告など、かなり実践的な議論があった。
- ・委員長： P T 長会議は継続的に行った方が良いと感じている。事務局で検討してほしい。
- ・事務局は、共通課題で記載している政策提案の仕方、流れを HP に掲載する。

(2) 平成 28 年度 P T 活動報告

各 P T 長からの活動報告

◆東京湾大感謝祭 P T 活動

【報告】(木村 PT 長)

- ・東京湾大感謝祭まで 1 か月を切った。チラシ、ポスターを各部署から公開して頂きたい。
- ・予算はきびしい状況が続き、実行委員会の努力があり、ここまで仕上げられた。
- ・一方、今年は環境省、水産庁などの参加もあり、より内容は充実してきた。
- ・10 月 14 日に東京湾大感謝祭開催の記者会見を実施する予定である。既に取材申し込みが来ている。
- ・東京湾大感謝祭と合わせて、ふるさと納税のイベントも開催されるので、さらに集客効果が期待できる。それに合わせて各 PT の PR を願います。

◆東京湾環境モニタリング P T 活動

【報告】(古川 PT 長)

- ・今年一斉調査ができ、今、とりまとめを東京湾再生推進会議モニタリング分科会を中心に精力的に行っている。啓発活動のメ切が少し先であり、情報がまだそろっていないが、協力して行っていく。
- ・ワークショップを開催して東京湾の環境マップの作製を行い、例年どおり活動を継続していく。

◆生き物生息場づくり P T 活動

【報告】(代理 岡田副 PT 長)

- ・ P T の活動を第 1 期 27 年末で終了し、第 2 期活動を開始、当面勉強会形式で進めていきアイデアを練っていく。
- ・9 月 1 日の勉強会の第一弾で、「製鋼スラグと浚渫土を活用したアマモ場創生技術」を P T メンバーから紹介する勉強会を開催した。
- ・同時に国土交通省関東地方整備局から、平成 27 年度の政策提案としてまとめた「マコガレイ産卵場の底質改善に関する提案」のフォローアップの現状説明があった。11 月にさらに詳細説明が予定されている。
- ・政策を提案してそれを実現していくのは、フォーラム全体のシステムが持続的に活



動していけるのかの試金石とも捉えているので、推進会議のご協力を是非お願いしたい。また、PT としても協力していきたい。

◆指標活用PT活動

【報告】(岡田PT長)

- ・ 2 年前に政策提案した指標の中で、推進会議では難しいデータの収集活動を行っている。
- ・ フォーラム会員でのアンケート収集を行った。(項目や回答数は資料を参照)
- ・ またヒアリングも実施している。
- ・ 毎年調査を実施する予定であり、指標のアンケートの理解が進み広まって回答数が増えることを期待している。
- ・ 調査結果を東京湾大感謝祭の時には PT ブースにポスター展示する予定である。

◆東京湾パブリックアクセス方策検討PT活動

【報告】(竹口 PT 長)

- ・ 先ほど説明しているので、ここでは割愛する。

◆東京湾での海水浴復活方策検討PT活動

【報告】(田中代行)

- ・ 夏休みの活動で手一杯であった。葛西海浜公園海水浴体験を実施した。
- ・ 今後の P T の活動計画
城南島海浜公園ヒアリング調査をとりまとめ、P T に報告し、討議する。
大田区ふるさとの浜辺公園、東扇島東公園のヒアリング調査を実施する。
政策提案について検討をはじめめる。

◆東京湾の窓PT

【報告】(代理 事務局報告)

- ・ 第二回が 9 月 27 日開催したばかりで、メンバーの連絡方法やフォーラムの東京湾イベントカレンダーとの情報リンクなど議論がおこなわれてところである。

◆江戸前PT活動

【報告】(代理 事務局報告)

- ・ 牧野 PT 長がご努力をされ、東京湾大感謝祭に向け、PT としての出し物の準備、および、水産関連団体への協力依頼をすすめている。
- ・ 前者については、水産庁とも協力し、出汁(ダシ)の相乗効果を体験する出し物を準備している。
- ・ 全漁連、豊かな海づくり協会、大日本水産会、東京水産振興会を訪問、協力を依頼。全漁連と豊海協会、大日本水産会さんからは、感謝祭での出店していただけることになった。
- ・ 東京水産振興会さんからは、江戸前の水産物に関する資料「東京湾の逆襲」を感謝祭会場で配布すべく、300 部寄付いただくとともに、展示用パネルなどもご提供いただけることになった。



- ・東京湾大感謝祭への露出を通して、活動を形成していく。

【江戸前 PT 活動の補足説明 水産庁 藤橋氏】

- ・10 月 13 日の実行委員会で、出汁の相乗効果実験を準備し事前体験予定である。
- ・9 月中に、(国研)水産研究・教育機構中央水産研究所にて、グルタミン酸とイノシン酸の水溶液を作成、試行する。
- ・ステージ上のイベントで、水産庁とも協力し、出汁(ダシ)の相乗効果を体験する出し物を準備し、来場者のお母さん方にグルタミン酸とイノシン酸の水溶液を作成し、その相乗効果(うまみ成分)を実際に体験していただき、世界遺産・和食の食育につなげていくメッセージにしたい。
- ・大日本水産会、全漁連のブースでも、同時に伝えていきたい。

◆浅瀬再生 PT

【報告】(鈴木 PT 長)

- ・第一回目の PT 会議を実施した。
- ・具体的に浅瀬ができる資料を情報収集して行く。
- ・漁場の資料を東亜建設さんをお願いしている。
- ・今回は、熊本大学のご出身の方による熊本県の事例を発表してもらおう予定である。

《質疑応答》

- ・事務局より各PTの東京湾大感謝祭への出展計画を紹介。

- ・メーリングリスト(東京湾の窓 PT)の仕組みと確実に PT からのメールであるヘッダーが付けば利用したいが、どのような仕組みか。他の PT からの要望でも対応はできるか。

→現状のメーリングリストは、東京湾の窓ではできている。他の PT でも要望があれば対応する。

(3) 平成 28 年度企業・行政等施設見学会報告

- ・横浜港の見学で、現在の港の現状と説明を受け、非常に分かりやすい説明に理解が深まった。
- ・潮騒の渚の見学及び、「べいくりん」清掃船兼油回収船の見学を行った。
- ・ご協力いただいた皆様に感謝します。

(4) フォーラム法人化検討委員会について

- ・検討委員会メンバーが確定した。
- ・第 1 回検討委員会を 10 月 22 日 16 : 00 から赤レンガ倉庫で開催する予定である。
- ・資料 7-2 は活動支援団体の web 検索結果から、関連あるところを並べてみた。民間 CSR や財団資金などの助成、地域の助成など支援諸条件を一覧にしている。事務局経費に充当できる支援の仕組みは限られていることがわかる。セブン-イレブン記念財団からの支援はありがたいことである。市民団体、任意団体などへの支援は透明性、確実性などが求められている。



- ・資料 7-3 は、フォーラムの立ち上げの考えを表した記事である。当時港湾局の担当課長さんである。2 ページ目は、行政の組織体としては、ふわふわした感があるが、手入れをしながら、徐々に仕組みを作り上げていく方法がある、といった面を説明している。
- ・今年度、来年度議論を進めていく。

(5) その他

- ・港湾空港タイムスの連載記事の紹介
- ・東京湾再生のための行動計画を巡る展開 古川委員執筆 東京水産振興会発行の紹介。
この資料は、フォーラム形成にいたるまでの様子から説明している。第一期の東京湾再生のための目標活動などが記載され、そのうえで、第二期では、官民連携という視点が新たに導入されて、フォーラムの活動経緯が記されている。
- ・事務局としても、あたらしく参加される方にも教科書的な資料として有益で、新しい方に正しく歴史を教えられるようになりたいという思いでご紹介した。

以上